

校長だより

福津市立福間東中学校

校長 猪股 清貴

平成 27 年 12 月 3 日 No35

命をいただいで生きているということ

～2年生の理科の実験、観察～



右の写真は2年生の理科の授業風景です。頭を寄せ合って真剣に取り組んでいるのは「鶏頭の解剖」です。理科学習の目標の一つに「目的意識を持って観察、実験などを行うこと」があります。2年生の理科では「動物の体のつくりと働き」の単元で「刺激と反応」について学習します。学習内容は「動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、その仕組みを感覚器官、神経系及び運動器官のつくりと関連付けてとらえられるようになる」ことです。

鶏頭が中央に置かれたバットを見たとき最

初は驚いた人たちも多かったのではないのでしょうか。はじめは恐る恐る頭部に柄付針を入れていましたが、平井先生の解説のとおり姿が見え始めると、あとは左の写真のようによろのグループも真剣そのものです。中には見事な手さばきで脳や視神経を確認できた班もありました。

最後に平井先生が牛の頭蓋骨を手にとりても大切な話をされました。教室はシーンと静まり返っています。「学習内容と同じように大切なことがあります。皆さんも肉を食べていますよね。こうやって人間と同じつくりを持った生き物の命を毎日いただいで生きていると



いうことを忘れないでほしい。」

このような学習を通して、生命に対する畏敬の念（尊敬し大切にしようという気持ち）や生命を尊重（大切に敬う）する態度を身に付けてほしいと願っています。2年生の解剖に臨む真剣な姿に感心しました。

もう一つ忘れないでほしいことがあります。それは東中は理科の実験の時間がとても多いということ。そして、この実験の準備や後の片づけはどうしているのかということです。理科室はいつも夜遅くまで電気がついています。